



編集・発行／茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>

2016年 秋号 Vol.24

# ほっとタイムズ

ドクター紹介 神経内科 小國 英一 各科各部紹介 第10回  
緩和ケア内科 三橋 彰一 感染制御チーム (ICT)

トピックス 総合学習 「いのちのはじまりから今の僕たち・私たち、そして未来へ」レポート  
かさま市民運動会に参加しました!

病院長メッセージ「先進国の少子化対策」



平成28年10月28日「総合学習 いのちのはじまりから今の僕たち・私たち、そして未来へ」の様子

病気を知ろうQ&A

女性にとって身近な病気  
～もっと知ろう 乳がんのこと～

### —第7回—

# 「先進国の少子化対策」



茨城県立中央病院  
茨城県地域がんセンター  
病院長 吉川 裕之

日本では急速な少子化、高齢化が進行しています。現在の若い男女は、親の世代に比べて、結婚する人が減り、結婚年齢も4-5歳遅れ、産む子どもの数も減少した結果、深刻な少子化が起っています。年齢による生殖機能の低下も関係しているといえるでしょう。日本では、きっかけが欧米化であったために、昔に戻ればよいと考える人が多く、女性の社会進出を抑制すべきだという誤解もあります。

先進国には少子化対策に成功した国と失敗した国があります。日本は無策の国ではありますが。成功した国の代表がフランスで、失敗した国の代表はドイツであるといわれています。フランスでは、女性の社会進出を促進したのに対し、ドイツでは女性の社会進出が後退しました。

少子化対策として保育園や認定保育ママ制度を充実させて、若い夫婦の収入を増やすことが重要でありました。母親の就業率は2歳以下と3~5歳で見ると、フランスでは53.7%、63.8%に対し、日本では28.5%、47.5%という結果が出ています。女性の全就業者のうちのパートタイム就業者は、フランスの22.9%に対し、ドイツ39.2%、日本40.9%となっています。しかもフランスでは、所得税がN分N乗方式（親+子どもポイントで割り算、大人と3人目以降の子どもは1.0、1・2人目の子供は0.5）である上に、子どもの人数に応じた家族給付であり、高校までの授業料も無料です。保

育園の待機児童が減らない日本は、最も肝要な政策さえ、実行できていないといえるでしょう。

日本、ドイツとは異なり、フランスでは19世紀以降人口が増えず、少子化対策に伝統があったことも指摘されています。ただ、フランスでは婚外子が50%を超えており、非婚カップルの出産が増えているのです（事実婚の差別解消と婚外子の利益保持が関係）。それに対し日本での婚外子は2%であるので、フランスをモデルとしにくい点はあるでしょう。また、日本がフランスと同じ政策をとるには7-10兆円必要と試算されています。とはいえ、社会全体で子どもを支えるというフランス社会の取組は示唆に富んでいるといえます。



## 女性にとって身近な病気

## ～もっと知ろう、乳がんのこと～

**Q：定期検診はどのくらいの頻度で受ければいいですか。また、若い世代でも検診を受けた方がいいですか。**

**A：**厚生労働省の指針では、40歳以上の方に、2年に1回のマンモグラフィ検診を勧めています。これは2年空けなければならないと言うことではなく、最低でも2年に1回は受けましょうと言うことです。どの検診でも、受けることによる不利益（要精査となり心配になること、不必要な検査が増えることなど）があります。若い世代でも乳がんはありますが、頻度は決して多くありません。30歳台以下の若い世代の方は、定期的な自己触診を行い、しこりを触れたときには専門医を受診することを勧めます。乳がんの多くは「痛くない」しこりであることに注意して下さい。

**Q：乳がんの治療方法にはどんなものがありますか。**

**A：**乳がんの治療には、手術、薬物療法、放射線治療があります。手術療法には乳房部分切除と乳房切除があり、希望者には乳房再建手術も行います。薬物療法にはホルモン療法と抗がん剤治療、分子標的薬があります。実際の診療の場では、乳がんの性格やがんの進み具合によって、これらを組み合わせて行います。

**Q：男性は乳がんにはなりませんか。**

**A：**男性も乳がんになりますが、女性の乳がんの1%程度です。女性の場合よりも高齢に発症することが多く、硬いしこりを自覚した場合や乳頭が陥凹した場合には乳腺外来を受診しましょう。

**Q：乳がんの予防法はありますか。**

**A：**明らかな予防法は認められておりません。しかし、喫煙や過度のアルコール摂取、閉経後の肥満が乳がんのリスクを高めることは明らかですので、これらのリスク要因をなくすことは、予防につながります。特に喫煙、受動喫煙は全てのがんのリスクを高めますので、是非とも本人や周囲の人の禁煙を推奨します。喫煙をしていながらがんを心配する方を散見しますが、本末転倒と思います。

**Q：乳がんの遺伝について教えてください。**

**A：**乳がん全体の5～10%が遺伝性であると言われています。家族内に35歳未満で乳がん罹患した方のいる場合や乳がんや卵巣がん、前立腺がんの方がいる時には、遺伝外来での相談をお勧めします。当院でも今年から遺伝外来を開設しました。



女性腫瘍統括局長  
**穂積 康夫 先生**  
が答えました



## ひと言

最近テレビ・雑誌のマスコミ等で乳がんについての報道を多く見受けます。しかし、多くの場合興味本位で内容に関しては疑問符の付くことが大部分です。また、インターネットの情報も玉石混淆で、時には有害な情報も沢山見られます。

乳がんについて関心のある方には「患者さんのための乳がん診療ガイドライン（日本乳癌学会編：金原出版）」を一読することをお勧めします。一人の医師の意見ではなく、日本全国の多くの専門医が執筆し、看護師や患者代表の方が一般の方々にも判りやすく監修しています。病院の売場に置いて頂いていますしネットでも簡単に手に入ります。

# ドクター紹介



神経内科 部長  
**小國 英一**

神経内科を一人で担当しております。対象疾患は歩行障害・手の震え・認知症等の神経難病に分類される疾患が数多く知られております。客観的に診断する検査法が開発されておりますが、未だ補助診断の域を超えておりません。加齢に伴う神経筋機能の低下との区別は容易でなく、数年～数十年に及ぶ症状変化が診断の重要なポイントになります。

場合により、生まれてから現在に及ぶ症状の有無を聞かせて頂く必要があります。診察待ち時間と予約待ち時間の短縮のため、予めこれらを思い出し整理して頂くことを、この場を借りてお願い致します。



緩和ケア 部長  
**三橋 彰一**

みつはし  
内科の三橋です。1996年僻地医療のつもりで初赴任、よき上司・同志と共に、まず造血器乳腺化学療法・同種骨髄移植・病棟内ホスピス、ついで輸血・治験管理等を立ち上げ、近年化療センターと緩和ケア病棟設立に携わり、現在は緩和ケア中心に活動中です。元来治療医ですが、抗がん治療は病気の方の人生に寄り添うためのツールと考えてきました。高度な医療も地域に根ざさねば象牙の塔に過ぎません。

数年前に病を得て若い頃の1/3程度しか働けませんが、がんとの闘いに出航するみなさまのよき水先案内人、憩いの波止場でありたいと願っています。

## 各科各部紹介 第10回 感染制御チーム(ICT)

ICTとは、Infection Control Teamの略称です。私たちは、様々な感染症から、患者さんや職員の安全を守るため、感染対策委員会の実働部隊として活動しています。

メンバーは、多職種で構成されています。ICD (Infection Control Doctor) である橋本先生が班長、稲川先生が副班長をそれぞれ務め、2名含め医師6名、研修医2名、看護師6名、細菌検査技師2名、薬剤師3名、放射線技師1名、リハビリ科技師1名、総務課1名、総計22名です。

病原体情報は細菌検査技師が、適切な抗菌薬の使用については薬剤師が、現場の感染対策は

看護師、組織やコスト等については事務、それらをまとめる医師、というように、それぞれの専門分野を生かしてチームで協力し、問題解決のための方策を日々検討しています。



総合学習  
レポート

## ～いのちのはじまりから

## 今の僕たち・私たち、そして未来へ～

10月28日(金)に友部小学校の5年生を対象に総合学習が行われました。小児科の稲川先生の講義では生徒の皆さんと実際に寝ているときと立っているときの血圧の差を調べたり、パルスオキシメーターを使って息を止めたときの動脈血酸素飽和度を調べたり、氷の張った水に指をいれて、長く入れているとどうなるのかなど、体が教えてくれるサインを通し、体験しながら楽しく「いのちを守る大切なしくみ」について学びました。

また上野看護師の講義では「高齢者を理解する」をテーマに年を取ると実際どうなるのか、また物の見え方や聞こえ方など、高齢者の心や身体の変化について映像をみながら、高齢者に寄り添うにはどうしたらよいかを学習しました。当院では今後も医療教育を通じ、いのちや医療への関心を高める活動をしていきたいと思ひます。



## 2016 かさま市民運動会に参加しました!

最高の運動会日和となった10月15日(土)、「県立中央病院チーム」としてかさま市民運動会に参加してきました。まずは笠間サポーターズでもあるパンチ佐藤さんの元気よい掛け声とともにラジオ体操からスタート!そして当院は「大玉転がし」と「高校生以上リレー」の2つの競技に参加しました。「大玉転がし」では、いつも職場で発揮している連携プレーで臨みましたが、惜しくも決勝進出にはなりませんでした。

次に院内の精鋭たちを結集したチームで臨んだ「高校生以上リレー」でしたが、こちらもあともう一步というところで、決勝進出は叶いませんでした。残念な結果となりましたが、普段なかなか仕事で触れ合う機会のない方々とも職員同士の親睦を深めるいい機会となりました。



# がん県民公開セミナーinみと開催のお知らせ

県民のみなさまへの普及啓発を目的に、がんに関する公開講座を開催します。今年のテーマは「女性特有のがん～乳がん、子宮・卵巣のがん」です。講演内容は「女性における遺伝性腫瘍」、「遺伝する卵巣がん、子宮体がんについて」、「遺伝性乳がんと乳がんの診断・治療」の3部構成になっています。

今や2人に1人が生涯のうちに、がんにかかるといわれており、実はがんはとても身近な病気なのです。ぜひこの機会に講演会に足を運んでみてはいかがでしょうか。入場料は無料です。お待ちしております！

## がん県民公開セミナーinみと

### テーマ「あなたの家系は大丈夫？－女性特有のがん遺伝のはなし」

【日時】平成28年**11月23日(水・祝日)**13:30～16:00

【場所】常陽藝文センター7階 常陽藝文ホール(水戸市三の丸1-5-18)

※会場には駐車場がありません。公共交通機関のご利用をおすすめします。  
お車でご来場の際は近隣の有料駐車場を各自ご利用ください。

【内容】県内で活躍する医師による、女性における遺伝性腫瘍や子宮・卵巣のがん及び乳がんをテーマとした講演会。入場無料。

お申し込み  
お問い合わせ

電話・FAXで事前にお申し込みをお願いいたします。

茨城県立中央病院 企画情報室

TEL 0296-77-1121(代表) 内線2017 FAX 0296-77-2886



## ご意見箱から

- 男子トイレに荷物置き棚はあるが置き忘れてしまう可能性があるため、小便器の間にフックがあればよいと思う。
- この度はご不便をおかけしまして、申しわけございませんでした。一階男子トイレの小便器間にフックを取り付けました。今後も取り付ける範囲を拡大して参ります。貴重な御意見ありがとうございます。

## 非常勤職員の募集

- |       |                                  |       |  |
|-------|----------------------------------|-------|--|
| ・職 種  | 治験コーディネーター(CRC業務)                | ・職 種  | 医療事務(医師事務作業補助者)                                |
| ・募集人員 | 1名                               | ・募集人員 | 5名程度   |
| ・雇用期間 | 採用から平成29年3月31日<br>契約更新有り(条件有り)   | ・雇用期間 | 採用から平成29年3月31日<br>契約更新有り(条件有り)                 |
| ・資 格  | 看護師、薬剤師等<br>(治験業務経験者は資格不問)       | ・業務内容 | 医師の指示に基づく診察や検査等の代理入力、診断書・診療記録及び処方せん等の文書作成補助など。 |
| ・賃 金  | 資格、経験により異なる。<br>他に賞与有り(院内保育所利用可) | ・必要経験 | 医療事務の経験等があることが望ましいが、未経験者でも可能                   |
| ・勤務時間 | 原則8:30～15:30(週29時間勤務)            | ・賃 金  | 時給1,155円、他に賞与有り<br>(院内保育所利用可)                  |
|       |                                  | ・勤務時間 | 原則8:30～15:30(週29時間勤務)                          |

多くの女性スタッフが活躍中！  
仕事と家庭の両立もサポート。

ご連絡先：事務局総務課 金子

☎0296-77-1121(内線2024)

## 茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.hospital.pref.ibaraki.jp/chuo/>